



四月十日 七年

開拓使東京大坂二府神奈川兵庫長崎新潟四縣へ達
各通

七

御國在留清國人民籍牌規則別紙ノ通り相定候條其地
在留清國人民へ布告ニ自今右規則ニ據リ取締方不都
合無之様可致此旨相達候事

司法省へ達

御國在留清國人民籍牌規則別紙ノ通り相定候條此旨可
相心得事

但裁判所へハ其省ヨリ可相達事 四月十日

在留清國人民籍牌規則

清國政府ヨリ我各開港場ニ領事ヲ差置ク迄ハ各港在
留ノ清國人民ハ男女ヲ問ハス其管轄廳ヨリ相當ノ保

護ヲ加ヘ遵守セシムヘキ諸規則等ヲ布達スヘク就テハ其戸數人負ヲ詳ニスルヲ緊要ナレハ管轄廳ニ於テ籍牌ヲ與ヘ以テ其編籍ヲ分明ニスヘシ因テ規則ヲ定ムル左ノ如シ

第一條

清國人民我國ニ在留セントスル者ハ著港ノ日ヨリ三日内ニ届出三十日内ニ籍牌ヲ受クヘシ若シ此日限ニ籍牌ヲ受ケサル者ハ直ニ籍牌ヲ受ケシメ手数料ノ外ニ罰金トシテ其定額ノ全額ヲ出サシムヘシ但シ右籍牌ハ年々之ヲ改換スヘシ

第二條

籍牌ヲ受クルニハ願書ヲ差出し其分限ニ應シ手数料トシテ上等ハ金二圓下等ハ金五十錢ヲ納メ七月ヨリ

十二月迄ニ受ル者ハ其半高ヲ納ムヘシ但シ十六歳未満ノ男及ビ婦女ハ其等額ノ半ヲ納ムヘシ

第三條

滞留三十日ヲ越ヘサル者ハ籍牌ヲ受ルニ不及尤モ著港ノ日ヨリ三日内ニ届書二通ヲ認メ管轄廳ヘ届ケ出一通ハ其廳ヘ納メ一通ハ檢印ヲ受ケ滞在ノ証トシテ所持スヘシ若シ此日限ニ届証ヲ所持セサル者ハ直ニ届証ヲ受ケシメ罰金トシテ下等籍牌手数料ノ全額ヲ出サシムヘシ但シ疾病並ニ止ヲ得サルノ事故アルハ其旨願出猶豫ヲ受ルヲ得ヘシ其猶豫ノ期限ハ二十日ヲ過クヘカラス

第四條

籍牌ヲ受ケ甲港ニ在留スル者若シ乙港ニ移住セント

欲スルトキハ其旨ヲ届ケ移住ノ上ハ手数料ニ及ハス
甲管轄籍牌ヲ以テ乙管轄牌ト交換スヘシ

第五條

本國ニ歸リ或ハ他國ニ行ク者ハ其旨届出籍牌ヲ返納
シテ其收票ヲ受クヘシ若シ又其年内何レノ港ニ限ラ
ス再々來リテ在留セント欲スルハ手数料ニ及ハス
收票ヲ其管轄廳ニ納メテ籍牌ヲ受クヘシ

第六條

籍牌ヲ紛失セシ者ハ直ニ届出更ニ定額手数料ヲ納メ
テ之ヲ受クヘシ其水火盜難等ニ係ル者ハ半數ヲ納メ
シムヘシ
但シ届証ヲ紛失セシ者ハ直ニ届出手數料ニ及ハス
更ニ受ルコトヲ得ヘシ

第七條

婚姻出産死去ノ節ハ當人又ハ其親故或ハ隨從ノ者ニ
テ届書ヲ認メ當人ノ籍牌ヲ受ケ或ハ返納スヘシ

第八條

毎年一月四日ヨリ日數六日間ニ其管轄廳ニ到リ籍牌
ヲ改換シ定額ノ手数料ヲ納ムヘシ若シ此日限ニ改換
ヲナササル者ハ手数料ノ外ニ罰金トシテ其半額ヲ出
サシムヘシ

第九條

籍牌検査ノ為メ其筋ノ官^後負ハ時々清國人ノ宿所ヲ巡
廻シ人毎ニ檢問スルコトアルヘシ若シ日限ヲ越ヘ籍牌
ヲ所持セス或ハ改換ヲナササル者アルハ直ニ籍牌
ヲ受ケシメ或ハ改換ヲナサシメ其手数料ノ外ニ第一

條第八條ノ罰金ヲ出サシムヘシ若シ籍牌ヲ受ルヲ肯
ンセス或ハ無力ニシテ受ル能ハサル者ハ我國無籍人
同様ノ處分ヲナスヘシ
但シ屬証ヲ所持セサル者モ亦全シ其罰金ハ第三條
ノ如クナルヘシ

第十條

籍牌ヲ所持セス在留スル者出訴スル時ハ先ツ其籍牌
ヲ持セサルノ罪ヲ糾シテ第一條ノ罰金ヲ出サシメ然
ル後裁判ス可シ

但シ屬証ヲ持セサル者第三條ノ罰金ヲ出サシムヘ
シ

第十一條

凡ソ訴狀類書屬書等管轄廳ニ差出スヘキ書類ハ必ス

總代人ノ証印アルヘシ地所ヲ借り受ケ及ヒ家屋ヲ借
賃賣買スル片ハ必ス約定書ヲ以テ管轄廳ヘ届出其書
ニ檢印ヲ受ケヘシ但シ右檢印手数料トシテ雙方ヨリ
金壹圓充テ納ムヘシ

○ 府 准給清國人民上等籍牌
○ 縣

姓名 王芳軒
年齢 四十八歳
本貫 浙江省寧波府鄞縣
生業 上等開河ノ号洋貨行
下等傭工
到港 明治六年三月十二日

程村紙四ツ切

明治七年
正類
身

住址

横濱百四十九番

明治七年

月 日

給

訂
金
証

〇〇

府 縣

准給清民家養牌

横濱百四十九番何々彌王芳軒

子姪
女孫

姓名

、、、、

年齢

、、、、

程村紙八ツ切

住址

、、、

明治七年

月 日

給

届書式

檢印

姓名

年齢

本貫

生業

寄留地

本文頁

己
承
果

妻 姓名

子 姓名

婢奴 姓名

右年號何年何月何日何國何港ヲ發シ年號何年何月何日日本國何港へ著

年 月 日

外務省上申

總父姓 姓名 印

清國政府ヨリ各開港場、領事ヲ差置候込、要各港在留ノ清國人民我地方官、ヲ管轄、俄既、修好條規第九條、明載有之候上、波來ノ清國人取締、方注各港區々、租民族ヲ、不都合不少候、付別紙規則ノ通普ノ御布達相成在留清國人ヲシテ一般ニ規則遵守爲效候様致度以段申進候也
二月二十五日 別紙規則上

ノ規則書ト大同小異ナルヲ以テ茲ニ若ク

伺之趣別紙ノ通相達候條各國公使領事等へモ爲心得其省ヨリ達シ置ヘキ事 四月十日

左院議按 法制課 王 查 外務課 歷 查

別紙外務省上陳在留清國人處分、儀遂審議候處條約面ニ據リ候、ハ内國人民ト同一ニ保護ヲ加ヘ制令ヲ確守セシムヘキハ政府ノ責任ニ候、比實際上海内國人民ト同視スヘカラサル事情モ可有之因テ反覆熟考參酌イタシ統轄規則ヲ籍牌規則ト改題シ其書中法度規律ヲ遵奉セシムル等ノ文字ヲ削除シ其地數條訂正ヲ加ヘ別冊寫ソ以テ同省へ意見及尋問候處異存無之旨回答有之候條諸按奉調供高覽候也

三月三十日 本文別冊御達ト全シ略ニ

大日本租稅志清國人籍牌手数料ノ部序説ニ云〔按〕是
レ清國政府我各開港場ニ領事ヲ置クマテ各港ノ在
留人其編籍ヲ明ニスル為メ籍牌ヲ付與シテ收入ス
ル所ナリ十一年理事官未任アルニ及テ乃チ之ヲ廢
止セリ

五月三日 七年

大藏省へ達

先般御國在留ノ清國人籍牌規則相達候ニ付テハ是迄
各管廳ニ於テ期限ヲ定メ手数料ヲ取り相渡置候籍牌
ハ其期限内ト雖モ引換候ニ付最前取立候手数料右規
則ヨリ過剩ノ分ハ其換牌ノ月ヨリ月割ヲ以テ本人へ
返附可致候條各管轄ヨリ申出候ハ、右過剩金可下渡
此旨相達候事

兵庫縣司

當港在留清國人籍牌手数料ノ儀上等一个年一名ニ
付洋銀十五弗中等全漸七弗下等三弗取立候條今
般御達相成候御規則ノ通此際一時換牌致候ニ就テ
ハ最前手数料取立籍牌相渡有之期限内ノ分ハ換牌